

定番消しゴム対決



高橋恵

◆MONO vs Radar vs まとまるくん

文具メーカー三社の、消しゴムを比較する。高性能高品質な消しゴムが次々と登場する中、長年愛され生き残ってきた馴染みの定番商品を比べたい。共通点を見出すとともに、各メーカーにおける消しゴム製品の展開と取りくみを探る。なお、ここで扱う「消しゴム」はプラスチック製の「字消し」を指す。

【社名／商品名】

Tombow	SEED	ヒノデワシ
(株) トンボ鉛筆	(株) シード	ヒノデワシ (株)
MONO 消しゴム	Radar	まとまるくん



【基本情報】 発売年／本体価格（標準サイズ）／サイズ展開

MONO 消しゴム	Radar	まとまるくん
1969 年	1968 年	1986 年
¥100(PE-04A)	¥100 (S-100)	¥100 (MM-100)
5サイズ PE-01A,03A, 04A,07A,09A	9サイズ S-60,80,100,150,200, 300,1000,10000	4サイズ まとまるくん 〈MM-100〉 でかでかまとまるくん 〈MM-300〉 のっぽまとまるくん 〈NMM-100〉 ちびちびまとまるくん 〈TM-100〉

三種の消しゴムのうち、最も伝統ある商品は 1968 年発売の Radar。製造メー

カーであるシードは、1950 年後半世界で初めてプラスチック製の消しゴムの開発に成功し、その集大成として生まれたのがこの Radar である。三商品ともに価格に差はないが、サイズ展開は、まとまるくんに関してはサイズごとに商品名を変えるという特徴がみられる。一方 Radar で標準サイズの約 120 倍の大きさ、重さ 2 キロを超える大きなサイズ (S-10000) の商品が発売されており、「記念」や「置物」といった、消しゴム本来の目的とは異なる使い方が予想される。

【キャッチコピー／使った感想】

MONO 消しゴム	Radar	まとまるくん
“みんなのスタンダード消しゴム”	“すぐれた消字能力、豊富な種類のレーダーシリーズ!”	“ (25 年目のまとまるくん) ”
・本体が柔らかく、軽力で消せる	・MONO よりは若干固く、しっかりした感触	・他の二商品より固め ・消しカスが散らばらずにまとまり、消しゴムにくっつく

MONO は「みんなのスタンダード」というキャッチコピーで、定番であることを強調している。2011 年にはグッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞していることもあり、定番であることへの自信の表れだろう。Radar は、「消字能力」という言葉を掲げるのは、日本字消工業会の消字テストにおける優れた消字率 (97%) の裏づけがあるからだ。とにかく消しゴムにおいて最も基本的な能力、よく消えること、が重視されていることが分かる。まとまるくんは、これといったキャッチコピーは見当たらなかったが、2011 年で 25 周年を迎え、合わせて限定モデルが発売されるということで「25 年目の」という言葉が使われた。「まとまるくん」という個性的な商品名が既にキャッチコピーとしての役割を果たしているためともいえるだろう。

実際に使ってみたところ、どれも定番商品だからか性能に大差は感じられなかった。特に MONO と Radar は非常に似た使い心地であり、強いて言えば、MONO の方が柔らかめというくらいであろうか。減りや消しカスに関してもほとんど違いは無いように感じられた。一方、まとまるくんは、その名の通り、消しカスが散らばらず、消しゴムにくっつくことで机をあまり汚さなくて済むという点で特徴的であった。

【スリーブ観察】

MONO 消しゴム	Radar	まとまるくん
<ul style="list-style-type: none"> ・青、白、黒のストライプ（一目で MONO と分かる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・水色（発売当時の青よりは薄い） ・「カラフルレーダー」として他の色も展開するが、共通のデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・水色 ・他の言葉は書かずに「まとまるくん」の文字のみで、印象的
<ul style="list-style-type: none"> ・角は丸く加工 	<ul style="list-style-type: none"> ・角は丸く加工 	<ul style="list-style-type: none"> ・角の加工なし
<ul style="list-style-type: none"> ・再生紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生紙
<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンマーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンマーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンマーク

スリーブとは、消しゴムのケースのことである。定番商品であるためには、一目でその商品と認識できるデザインを維持することがまず重要である。さらに MONO と Radar は角に丸い切込みの加工がされており、傷防止・折れ防止への細やかな工夫が見られた。また、共通して見られる「クリーンマーク」の表示からはメーカーの取り組みが窺える。これは日本字消工業会による有害物質・性能への安全基準に適合している事を示すマークである。また、スリーブ上での表示は無いが3商品ともグリーン購入法適合商品である。

なお、クリーンマーク上に記載される製造番号に関して、MONO、Radar はともに「01」番である。この番号は製造メーカーを示すものであり、「01」は株式会社シードを表す。よって MONO はシード社が提供した OEM 製品（受託生産による商品で、注文側の商標で販売される）である可能性が考えられる。二商品にみられた、スリーブの角の加工技術や使用感等の類似点も、同一社による製造とすれば合点がいく。

最後に各メーカーによるさまざまな消しゴムを商品を紹介し、それぞれの特徴をまとめておく。

【商品名／特徴】

Tombow	SEED	ヒノデワシ
<ul style="list-style-type: none"> （モノ シリーズ） ・スマート ・エアタッチ ・ダストキャッチ ・ライト 	<ul style="list-style-type: none"> ・カルサーラー ・ノンダスト ・もてばかりい ・スーパーサラサラ ・スーパーねばねば 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまるくんシリーズ ・かおりちゃんシリーズ ・ねりけしくんシリーズ ・合格シリーズ ・デンケシシリーズ

<ul style="list-style-type: none"> ・もっとかえる消せる消しゴム ・もっと集まる消しゴム ・ノンダスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーカチカチ ・リラックス効果 ・集中力アップ ・アナタスシリーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジーシリーズ ・事務用 ・とんがりくん
<p>MONO を基盤に、感触や性能ごとに商品を展開。基本的なデザインはそのままに、言葉の付け足し、形や色が若干変化するのみ。MONO ブランドへの信頼の厚さか。</p>	<p>Radar とは全く異なる商品を展開。個性的なデザインやネーミング、他の効果を狙う変わり種商品が揃う。アナタスシリーズは穴と溝のついた個性的な形状の商品。</p>	<p>コンセプトや性質別にシリーズ化。個性的なネーミングと商品内容から子供向けか。香り付きや色付きで、実用性とは異なる方面で豊富なラインナップを揃える。</p>

定番商品以外の商品には各社のこだわりが色濃く反映されるようである。性能を重視する機能性追求型のトンボ、性能の追求とともに商品に個性を持たせるシード、消しゴムに雑貨のような愉しみを付加するバラエティ志向のヒノデワシ。それぞれが大きく異なる方向性で商品開発を行っていることが分かる。

以上定番商品の比較と各メーカーの消しゴム開発における特徴を見てきた。定番となる商品は、性能やデザインがシンプルで使用する人やシーンを選ばず、基本的なスタイルが崩れないということが明らかになった。このことは世の中のあらゆる商品についても同様かもしれない。とは言え、製品への人々の欲望は無限であるから、ニーズに応え改良を重ねつつも、「定番」として商品を維持するのは、容易なことではない。定番消しゴムには、商品が愛用され続ける秘訣がたくさん詰まっているのである。

【参考 URL】

- ・日本字消工業会：<http://www.jikeshi.gr.jp/>
- ・MONO|株式会社トンボ：<http://www.tombow.com/brand/mono/>
- ・Radar|株式会社 SEED：<http://www.seedr.co.jp/eraser/eraser1.html>
- ・まとまるくん|ヒノデワシ株式会社：<http://www.hinodewashi.co.jp/index.php>

奈良女子大学文学部人文社会学科文化メディア学コース編
(2012年度後期「文化社会学演習」報告書)

『文房具—ぶんぐ大学への招待—』

2013年8月12日発行

編集・発行 奈良女子大学文学部 人文社会学科
文化メディア学コース (小川研究室)

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 電話&FAX 0742-20-3259
E-mail ogawax@dream.com

印刷 株式会社 実業印刷